３月号
令和３年２月２５日

# ほしかわ

横浜市立 星 川 小学校
校 長 小西　俊光
TEL.332-2101 FAX.331-5052
WEBページ　http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/hoshikawa/

## 「想像力のスイッチ」を働かせて、見つめ直す

校長　小西　俊光

校舎の裏の地面から蕗の薹が丸い顔を出し、春の訪れを感じる頃となりました。コロナ禍に悩まされる日々が続いておりますが、あと少しの辛抱、そして、気を緩めないで感染対策を実行し続けることが大切だと思います。

さて、２月１２日（金）に、国語学習の研究授業が行われました。その授業の中で取り上げられた５年生の説明文教材「想像力のスイッチを入れよう」には、情報があふれる世の中を生きていくうえで、とても大切なことが書かれていました。その説明文の内容はおよそ次のとおりです。

メディアは、メディアが大切だと思う側面を切り取って、少しでも早く、分かりやすく情報を伝えようとしている。一方、私たちはメディアからの情報を全て事実だと思い込んでしまう。そのため、誰かを苦しめたり、誰かが不利益を受けたりすることがある。そこで、情報を受け止めるときには「想像力のスイッチ」を働かせることが大切である。「想像力のスイッチ」とは、①「事実か印象か」（事実と印象を混同して鵜呑みにしないこと）　②「他の見方がないかな」（受け取った情報を、一つの見方だけでなく、別の角度から見ること）③「何が隠れているかな」（メディアから提示されていない情報がないか探ってみること）④「まだ分からないよね」（判断を固定しない姿勢）の４つのスイッチ、すなわち、「情報を吟味していく具体的な観点」と「常に意識する基本姿勢」である。

「想像力のスイッチ」を入れて情報を見直し、俯瞰して物事を眺めて、自分の頭で考えて判断できる人になってほしい。

「想像力のスイッチを入れよう」の筆者であるジャーナリストの下村健一さんは、この説明文に関するインタビューの中で、「先入観で新しい情報を排除せず、日々柔軟に見方を変えていくこと」の大切さを強調しています。このインタビュー記事を読んで、多面的・多角的に物事を見ながら、そのとき、そのときの中でよりよい判断をしていく柔軟さが子どもたちだけでなく、私たち大人にも必要だと思いました。

今年度はコロナ禍のため、当たり前に行われていた学校行事や日々の教育活動が実施できなかったり、実施の仕方を変えたりせざるを得ない１年間でした。しかし、各行事の意義や価値、日々の教育活動のよさと改善すべき点について改めて考える、よい機会にもなりました。私たち教職員一同、下村さんが提唱する「想像力のスイッチ」を働かせて、これまでの教育活動を見つめ直し、現在の星の子にとってより価値あるものにしていきたいと思います。

この１年間、コロナ禍のため例年のような教育活動を行うことができませんでしたが、これまでと変わらず子どもたちを見守り、学校の教育活動にご理解ご協力いただき、ありがとうございました。今後とも皆様からのご支援を賜り、皆様とともに星の子を健やかに育てていきたいと思います。